

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	伊万里市立啓成中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の向上：学校全体が学力向上についての気運が高まっているので、次年度も今年度の取り組みを継続していきたい。また、家庭との連携を図り、家庭での学習時間1時間未満を20%以下にすること、0時間をなくし、更なる学力向上を目指したい。 ・業務改善・働き方改革の推進：データの共有や業務内容の改善を行うとともに、職員のタイムマネジメント力の向上が課題である。また、超勤時間の削減のために、定時退勤日の設定と実行をめざしたい。 ・開かれた学校づくり：コミュニティ・スクールをとおして、地域・保護者・学校が連携を図り、教育環境を充実させることで、生徒指導面と学習指導面をさらに向上させていきたい。
2 学校教育目標	『互いの心を響き合わせ、みんなで成長する～響成の啓成Creation～』
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導面：「かわかなの学校・かわかなの活動メニュー」を通じて、生徒向上が特に期待され、各目標項目であることへの意識を高め、互いの成長を喜びを育てる。また、お互いが支え合い、認め合い、高い目標を掲げ、互いに高めあうことを目指す。 ・学習指導面：「みんなの授業づくり」を通して、基礎学力の定着を図り、共に学ぶ意識を向上させ、互いに認め高め合う学習集団をつくる。また、学力を高めるとともに、自尊感情や自己有用感を高めること、進路保障につなげる。

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目									
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・全職員で、学力向上対策シートにおける本校の実態とマイプランを共通理解・共通認識することで学力向上に取り組む。 ・生徒による授業アンケートを実施し、その結果をもとに授業改善に取り組む。	B	・学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師は79%で目標に届かなかった。 ・授業におけるICTの効果的な活用や生徒授業アンケート結果を踏まえた授業改善など、指導法の改善に努めた。	B	・家庭学習についてのアンケートで、保護者(77%)、生徒(84%)、教職員(75%)間の差があり、認識の差を埋める方法を検討すべきではないだろうか。	◎学力向上C ◎研究主任	
	○(学校独自重点取組・任意) 授業と運動した家庭学習の充実	○(学校独自成果指標・任意) 生徒アンケートにおいて、家庭学習時間が1時間未満の生徒20%以下、0時間をなくす。	・全学年で自主学習等の課題に取り組み、家庭学習の充実を図り、家庭学習の習慣化と学習内容の定着を図る。	B	・1月の生徒アンケートでは、家庭学習時間が1時間未満の生徒26.9%、0時間は2%(4名)であった。 ・2学年英語では、学年における課題の与え方の工夫により、大きな成果が得られた。	B	・家庭学習の習慣づけについては、家庭での教育も大きいと思う。	◎学力向上C ◎研究主任	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○生徒アンケートにおいて、思いやりの項目「人の気持ちがわかる」80%以上	・「特別な教科 道徳」の授業や人権・同和教育を充実させる。	A	・生徒アンケート「友達に対して、相手の気持ちを理解し接していますか」では84%であった。 ・全学年で日々の道徳の授業の教材研究に取り組み、授業力の向上を図ることができた。 ・各学年で道徳の題材を通して、いじめやSNS等をテーマにした授業実践を行った。また、人権学習にも力を入れ、部落差別や身分制度を通して、さまざまな観点から人権について考えた。	A	・学校運営協議会の際に、「いじめ」についての説明を受けた。些細なことでも人間関係が崩れてしまうことがあると思う。心の教育の一環として、「コミュニケーション」についての講演会を実施したらどうだろうか。会話をすることで、解決できるケースもあると思う。	◎道徳教育推進教員 ◎人・同教育 ◎各学年主任	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめ防止のための取組、いじめ事案対応等)について組織的な対応ができていて回答した職員80%以上	・生徒との積極的な関わりやいじめアンケート、定期教育相談等を通して、共通理解・情報共有を行い、組織的な対応を充実させる。	B	・職員アンケート「いじめの防止や早期発見・早期対応に努め、生徒の良好な人間関係づくりに取り組まれましたか」では80%であった。 ・生徒の生活アンケートを毎月実施し、いじめの早期発見や生徒の困り感に素早く対応することができた。 ・事案が発生した場合には、管理職・学年主任・担任と連携して対応し組織的に行うことができた。	A	・いじめの問題は、当事者間の対策はもちろん必要だが、クラスや学年など全体で問題点を共有することを考えてはどうかだろうか。 ・新聞や読書、マスメディアニュースに触れることで世界や世の中の動きを知り、感じ、考えたりする能力、感性が必要と感じている。それが、学力、心の教育につながる生き生きとした力になっていく。家庭教育力をどうにかして高められないかと思う。	◎生徒指導主事 ◎各学年主任	
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒(中学3年生)70%以上	・キャリアパスポートを活用し、これまでの学びを振り返るとともに、高校調べや職場体験学習を通してのキャリア教育の充実を図る。	・キャリアパスポートを活用し、これまでの学びを振り返るとともに、高校調べや職場体験学習を通してのキャリア教育の充実を図る。	A	・生徒アンケート「将来の夢や目標を持っていますか」では77%であった。 ・進路学習の一環として、外部から講師を招き、2・3年生で制服着なしセミナーを各学年で行った。 ・2年生では、中止になった職場体験学習に代わり、様々な職種の講師を招聘し、職業講話を実施するなど進路学習に取り組んだ。 ・キャリアパスポートについては、各学年で取り組み状況が様々な状況である。方向性を決めるなど学校間で統一した方針を検討する必要がある。	B	・将来の働き手を背負ってくれる人材育成のため、ふるさとの歴史や活躍されている先輩の話や働く機会を設ける。また、学校や地域の交流が一層求められていると思う。	◎特活主任・3年主任 ◎各学年主任
	○生徒会との運動	○生徒アンケートにおいて「学校生活は充実している」生徒70%以上	・常時活動の主体的な計画・実践を促し、様式を含めた学校行事の機会を捉え、生徒の活躍の場を仕組むことで、健全な自尊心(自己尊重感・自己有能感)を高めさせる。	・常時活動の主体的な計画・実践を促し、様式を含めた学校行事の機会を捉え、生徒の活躍の場を仕組むことで、健全な自尊心(自己尊重感・自己有能感)を高めさせる。	A	・生活アンケート「中学校での学校生活は充実していますか」では83%であった。委員会では、生徒会役員が司会や整列指導を行ったり、冬服の正しい着こなし方や無言指除の強化を全校に呼びかけたりするなど、生徒主体の学校づくりが今までよりもさらに発展した。加えて、各学級の委員も意欲的に活動したことが、学校全体の落ち着きにもつながっている。	A	・生徒会を中心とした活動や、生徒の活躍の場を設けることで自信を持った子供たちの育成に取り組んでいただきありがとうございます。	◎生徒会担当
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○欠席者・遅刻者の理由を把握し、新たな不登校生徒の発生0人を目指す。	・毎日の健康観察で、欠席者・遅刻者の把握と理由の確認を行うとともに、職員間で情報共有することで不登校生徒の早期発見・予防に努める。	B	・不登校生徒は傾向も含めて9名であるが、担任および学年での対応により、時々ではあるが登校できる生徒が出てきた。今後も組織的対応が重要である。 ・2月までの生徒の交通事故は0件である。 ・交通ルールについて、生徒アンケート「交通ルールを守り、安全に気をつけて登下校ができていますか」では91%、危機管理体制について、保護者アンケート「学校は、生徒の事故防止や健康・安全に配慮している。」では83%であった。避難訓練や自転車通学者の指導など全職員で連携して取り組むことができた。	B	・不登校は、家庭と学校が共通認識をもって生徒と接する必要がある。現在の取組をさらに深化させることが必要と思う。	◎教育相談担当 ◎養護教諭	
	●「安全に関する資質・能力の育成」	●児童生徒の交通事故を0件を目指す。	・防災・安全指導を充実させ、日常生活における生徒の危機予測能力を育む。	B	・防災・安全指導を充実させ、日常生活における生徒の危機予測能力を育む。	B	◎安全教育		
	○感染症等の予防	○感染症、熱中症等の発生0件を目指す。	・手洗いうがいを徹底させることで、感染症や食中毒の予防に努める。 ・熱中症指数的の提示を行うことで、熱中症の予防に努める。	・手洗いうがいを徹底させることで、感染症や食中毒の予防に努める。 ・熱中症指数的の提示を行うことで、熱中症の予防に努める。	A	・感染症発生件数は0件、熱中症の発生件数は1件であった。熱中症発生時は、医療機関と連携を図り、適切に対処することができた。 ・感染症予防として、手洗い・消毒・マスク着用の励行に加え、換気については生徒会の委員会活動で放送を行うなど自主的な活動も行い、予防意識が高まった。今後も生徒が問題意識を持つような指導が必要である。	A	・体育活動が感染症対策で制約される中、体力強化を図ることは難しかったと思う。 ・コロナ禍の中で、工夫しながら努力されていると思う。	◎養護教諭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日を設定(毎週水曜日)と実行する。 ・部活動休業日(第3日曜日・毎週水曜日)を実行する。	B	・年間超勤時間の月平均は、43時間24分であった。 ・部活動終了時刻が遅い夏場の退勤時間が課題である。	B	・教職員の業務内容等は分らないが、自分の経験からすると、前任者から引継書を受けたら自分で引継書を作り直し、問題点を整理し課題解消に向けた方策を検討した。	◎管理職	
	○多忙感の解消	○職員の協働意識と同僚性を高め、業務の効率化と役割分担を行い、多忙感解消と感じる職員70%以上を目指す。	・職員のタイムマネジメント力を高めさせるとともに、定時退勤日の確実な実施を行う。 ・事務職員、市雇用職員、非常勤講師等との連携・協働体制を構築する。	B	・職員アンケート「多忙感の解消につなげることができた」は89%であった。 ・事務職員との連携で、会計簿処理の効率化が実現できた。	B	・働き方改革は、前例踏襲をしないことと思う。	◎管理職	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								主な担当者	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○地域に開かれた学校づくり	○コミュニティ・スクールをとおした、地域・保護者と連携した開かれた学校づくり	○(学校独自成果指標・任意) 学校評価アンケートで、地域に開かれた学校づくりに取り組んでいる75%以上を目指す。	・PTA活動や、学校運営協議会をとおして、地域と連携した活動を積極的に行う。	A	・保護者アンケート「学校は、地域に開かれた学校づくりに取り組んでいる。」では76%であった。また、職員のC・Sについての理解は71%で、職員への周知を高める必要がある。	A	・新型コロナウイルスの影響で、学校での生徒たちの様子を見る機会減ったが、地域で会った時にはきちんと挨拶をしてくれる。 ・PTAは、学校と地域を結ぶパイプの役割もあるので活性化を期待する。		◎管理職 ◎全職員
○信頼される教職員としての意識の向上	○教職員としての高い倫理観と規範意識の向上	○組織の一員であることの自覚と日常におけるコンプライアンス意識を強化するとともに、服務規律堅持100%を目指す。	・職員会議、服務指導0(ゼロ)の日で指導するだけでなく、外部人材による服務研修を実施する。	B	・全職員で服務規律の保持に努め不祥事を0を目指した。89%であった。 ・通帳と印鑑の管理を担当者と事務長に分けることで、公金の取り扱いを公明にした。	B	・倫理観と規範意識を重点取組としているが、これに保護者や地域住民に信頼されるための取組が必要ではないか。	◎管理職	
●…果共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育									
5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の向上については、学校全体が学力向上についての気運を維持し、次年度も今年度の取り組みを継続していきたい。また、小中連携や家庭との連携を図り、家庭での学習時間1時間未満を20%以下にすること、0時間をなくし、更なる学力向上を目指したい。 ・業務改善・働き方改革の推進については、データの共有や業務内容の改善を行うとともに、職員のタイムマネジメント力の向上が課題である。特に、確実な定時退勤日の設定と実行をめざしたい。 ・令和3年度よりスタートしたコミュニティ・スクールをとおして、地域・保護者・学校が連携を図り、教育環境を整備・充実させることで、生徒指導面と学習指導面をさらに向上させたい。また、職員や地域・保護者へのC・Sについての周知を図りたい。 								